

## ■ 神奈川県大学図書館

横浜 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1 TEL.(045)481-5661(代表)  
平塚 〒259-1293 平塚市土屋 2 9 4 6 TEL.(0463)59-4111(代表)  
<http://www.kanagawa-u.ac.jp/lib/index.html>

## 無用の用

### 本間正明

ここ20年ほどの間に出た本なら、たいてい裏表紙や奥付に ISBN で始まる10桁の数字が付されている。例えば、たまたま私の机上にある本を手にして見ると“ISBN 4-00-010481-0”と記されている。ISBNはInternational Standard Book Numberからの頭字語、最初の数字“4”は日本語を意味する。もう少し正確に言うと最初のハイフンの前の数字はその本の出版地の属する言語圏を意味し、“0”と“1”は言わずと知れた英語帝国圏、“2”はフランス語圏、“3”はドイツ語圏と続く。もちろん一桁では間に合うはずも無いので、例えば朝鮮語圏には“89”という数字が割り当てられている。書物に用いられた言語ではなく出版地の言語圏を表示するため、Springer のような発行地を2つ以上持つ出版社の場合、ひとつの本に複数のISBNコードが割り当てられることもある。最初のハイフンの後の“00”は出版社、因みに“4-00”は岩波書店。次の“010481”は岩波で割り当てたこの本固有の番号である。さて、最後のハイフンの後の数字“0”の謎解きがこの話の眼目であるのだが、この数字は上で説明した意味を持つ9個の数字それぞれにその数字が何番目にあるかの数を掛けて足し合わせた結果を11で割った余りとして定められている。上の例で言えば、“ $1 \times 4 + 2 \times 0 + 3 \times 0 + 4 \times 0 + 5 \times 1 + 6 \times 0 + 7 \times 4 + 8 \times 8 + 9 \times 1$ ”を計算すると110になりこれを11で割ると余りが0という具合になっている。実際手近にある本で確かめて見ると良い。ただし11で割るため、余りが10となる場合もあるが、この時はXと記すことになっている。

何故にこのような余分な数字を付加しているのだろうか。ISBNコードをコンピュータに入力するような場合タイプミスをすることは十分考えられる。仮想的には、入力された数字の列 $a, b, c, \dots, j$

から機械的に“ $1 \times a + 2 \times b + 3 \times c + \dots + 10 \times j$ ”を計算するプログラムを入れておけば、この和が11の倍数にならない限り入力にミスがあるということが判明する。この仕組みにより、2箇所以上タイプミスをするとなまたま和が11の倍数になってしまうことはありうるけれど、少なくとも一箇所だけのタイプミスなら間違いなく警告を発することができる。これだけなら、わざわざ掛け算などしなくてもすべての数字を足し合わせたものの和が11で割り切れるよう最後の数字を決めても同じことが可能なのだが、ここにはもう一工夫ある。長い数字を記憶するとき途中の数字を、例えば“436”となるべきところを“634”と、2つの数字を入れ替えてしまうミスを犯しやすいことは、間違い電話を掛けた後につくづく反省して見たことのある人には理解できるだろう。11が素数であるのでISBNコードの仕組みではこのようなミスの場合には和がたまたま0になるということはなく、警告を発することができる。ISBNコードは意味を担わない言わば“遊び”の数字を付け加えることによってミスを発見できる仕組みになっている。このような仕組みは“遊び”の数字の個数を増やすことにより、一定の個数までの誤りなら機械的に訂正できるよう設計することも出来る。

一見無駄に見える“遊び”によって誤りが見つかったり訂正できたりというのはなかなか教訓的ではないだろうか。近ごろは“遊び”を無駄なものとして削ぎ落とす向きがある。そろそろ紙幅も尽きてきたし後の祟りも恐ろしいので具体的例示は差し控えるが、大学にあってもその例外ではないように思う。皮相な効率化に邁進するのではなく、無用の用に思いを至す大学でありたいものだ。

(工学部教授・数学)

## 『マリーオと魔術師』

トーマス・マン著 高橋義孝訳 新潮社  
B908-35-3 908-2-35

池端忠司

この短編は、ある解説によればムッソリーニのイタリア・ファシズムのダイナミクスを虚構上探究するものである。内容は二つに区分できる。前半は小説の語り手であるドイツ人らしき中産階級に属する主人公が、家族旅行に来たファシズム体制下のイタリアの海岸沿いにある保養地で感じた異常な雰囲気困惑する部分である。語り手は小説の冒頭から、その思い出には、「腹立たしさ、興奮、過度の緊張がそもそもの初めからあたりを漂っていた」と述べる。魔術師が登場する後半は、ファシズム体制下の独裁者が国民の支持をいかに取り付けるかを、マジック・ショーを行う魔術師と観客のやりとり置き換え、描写する部分である。前半はこの後半の前触れとして語られているために、通常は本書全体を通してファシズム体制下の庶民の異常な心理を描いたものと理解されるが、ここではアメリカの憲法学者（リチャード・パーカー氏）の見解に触発させ、庶民の政治的エネルギーから距離を置く傍観者的な語り手の態度を問題視する観点から本書を読んでみる。

この小説の前半にはイタリアの庶民が医者診断を無視する二つの描写がある。一つは語り手の一家が宿泊していたホテルを変えるきっかけとなった事件である。同じホテルの隣室に宿泊していたローマから来ていた公爵夫人が、語り手の子どもの百日咳の病後の咳を聞き、自分の子どもにも感染するのではないかと心配する。その苦情を受けてホテルの支配人は語り手に相談した末に医者と呼ぶ。医者はうつらないと診断したが、支配人は別館の空き室に移動するように語り手に告げる。支配人のとった態度は、一見、語り手が言うように、非合理で、常連の身分の高い者に媚びを売る態度であると理解することもできるが、支配人の立場からすれば単なる営業上の決定であり、良く言えば度を越しがちな親心への配慮とも言える。

またもう一つの場面は、海水浴場で遊んでいた

イタリア人の男の子が小さな砂ガニに足の指をはさまれ、先の事件と同じ医者が呼ばれ、心配ないと診断したにもかかわらず、母親もまわりの野次馬も大騒ぎをし、大げさにも担架に乗せて男の子を運ぶ場面である。語り手はこれも非合理と理解するが、イタリア人のもつ暖かい情愛と捉えることもできるであろう。

さらにイタリアの庶民に対する語り手の評価を決定づける事件が起こる。語り手の8歳になる娘が海辺で裸になって砂で汚れた水着を洗ったことが「良俗」に反するとして罰金まで払うことになる。語り手はあまりの形式主義に唖然とし、子どものことまでも外形上繕わなければならないほどイタリアの道徳は墮落しているのかと問い返したかったと告白する。しかしこれも性のモラルの地域性を前提とするとき、語り手の憤りは説得力のない旅行者の論理であろう。

語り手は、後半の場面でも理性の人として振舞い、醜い容姿をした魔術師が言葉巧みに観客の心を捉え、催眠術を使って驚くような能力を発揮することによって、観客との信頼や尊敬さえも徐々に勝ち取ってゆく様子を冷静に描写するが、語り手も子連れでありながら夜中になってもその場を去れぬほど夢中になり、魔術師から最大の侮辱を受けたマリーオが、魔術師をピストルで撃つという痛ましい結末に立ち会うことになる。

以上の解釈によれば、理性の人である語り手は、庶民の犠牲者と解する通常解釈とは対照的に、庶民の能動性を正当に評価できないだけでなく、魔術者との受動的な関係でも庶民とともに虜になってしまった者と理解される。先の憲法学者の見解によれば、本書は、庶民の政治的エネルギーをどう評価するかを示すロールシャッハ・テストのインクの染み、初歩的な心理学の教科書にある「反転する図柄」のスケッチの役割を果たすことになる。  
(法学部教授・憲法学)

# 『ボブ・ディラン全詩集 -WORDS by Bob Dylan』(日本語編・原文編)

ボブ・ディラン著 片桐ユズル、中山 容訳 晶文社  
B931-1~2-32

金 沢 謙 一

私は、ボブ・ディランのことをよく知っているわけではない。レコードと楽譜とこの本を通して知っている程度である。彼の歌にしても、よく聞いたのは初期の作品だけで、それ以後のものはほとんど聞いていない。ただ、彼の歌と詩に私は大きな影響を受けたと思う。私の中で、戦争や社会に対しての関心、また、英語と異文化への関心が高まったのは、彼の歌と詩によるところが大きかった。私が初めてボブ・ディランの歌を知ったのは中学2年の頃である。英語の教師が「Blowin' in the Wind」の詩を配り、歌を聞かせたのが始まりだ。当時はベトナム戦争の末期で、反戦運動が高まり、この歌はその象徴のひとつであった。中学校には、反戦について、また大学紛争の影響から生徒の自治や権利を説く先生がいた。自分自身と社会にぎこちなさを感じていた私は、すぐにその信者になったものだ。

この本の初版は1974年に出版された。原著の Bob Dylan: WRITINGS AND DRAWINGS は1972年に出版されている。1962年の最初のアルバム Bob Dylan から1970年の New Morning までの10枚のアルバムに登場する歌詞の完全版とその間を埋める幾つかの詩、そして、ボブ・ディランが描いた多数のスケッチが収録されている。日本版は、英文と和文の二冊組になっている。その後いくたびか変節したボブ・ディランからすると、彼の若き日の情熱を記録した一冊と言える。

ボブ・ディランはかつて歌っていた。「時代は変わる: The Times They Are A-Changin'」。それから40年余、時代は確かに変わった。冷戦は終わり、世界の情勢は大きく模様替えとなった。日本社会では伝統的な終身雇用、年功序列が揺らぎ、かつてこの伝統に異議を唱えた若者も年をとり、今や、その枠組みの崩壊により、自らがリストラの憂き

目にあっている。「時代は変わる」の中の一節が頭に浮かぶ。As the present now / Will later be past / The order is / Rapidly fadin' / And the first one now / Will later be last / For the times they are a-changin'

彼の詩の響きを耳にすると、「本当にそうだ」と若い頃も今も感じ入ることがある。一方、詩の幾つかは何か不可思議なもの、何か根本が違うものを感じる。彼はアメリカ人であり、当然、その詩の基盤にあるのは西洋である。反戦を唱えるにしても社会に物申すにしてもその宿命から逃れることはできない。私は、彼の詩の中に、異文化のもとで育った人間の表現というものを感じた。それは、時にエキゾチックで魅力的であるが、時に違和感を覚えるものでもあった。この宿命の存在の認識は、その後、異文化の狭間で生きてゆくことになった私の運命の中で、大きな意味をもつことになった。

昔は何かあるごとによく聞いたボブ・ディランの歌もここしばらく聞くことが無かった。忙しすぎるためか、あるいは、自分が変わったのか。この小文を書くにあたって久しぶりに聞くと、スピーカーから流れる彼の歌声に合わせて、自分の中で貫かれてきたものと変節を遂げたものが、混沌の中から突然跳び出してくる感覚に捕らわれた。

この本の時代はすでに一昔前である。ボブ・ディランは当時の社会に、特に若者に影響を与えたと思う。しかし、直接影響を受けた若者ももはや中年、今や次の世代の若者に何かを講釈している。私の専門は生物進化の研究で、すべての生物は歴史的所産であると考えている。自分は一体いずこよりの所産なのか、この講釈の起源は何なのか。歴史を辿ると、そのどこかに何かを見つける。

(理学部助教授・進化生物学)

## シュペリ『日本竹譜 完』1903年

Spörry, Hans 1859-1925

Die Verwendung des Bambus in Japan und Katalog der Spörry'schen Bambus-Sammlung / von Hans Spörry; mit einer botanischen Einleitung von C. Schröter. -- Zürich: Druck von Zürcher Furrer, 1903.

xii, 198 p., 8 leaves of plates (some folded): ill. (some col.); 23cm.

At head of title: Geographisch-Ethnographische Gesellschaft Zürich.

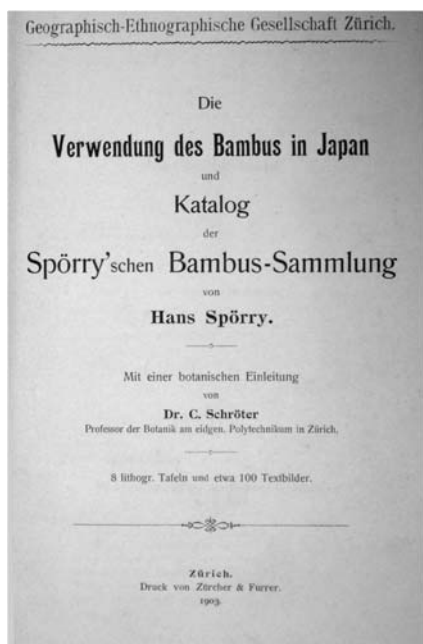
Back cover title: 日本竹譜 完

"8 lithogr. Tafeln und etwa 100 Textbilder."

去る2003年4月6日から2004年2月29日に、スイスのチューリヒ大学附属民族博物館で「日本の竹細工・工芸品」展が開催された。会場では、竹製品の籠、虫籠、提灯、枕、茶器などが展示され好評を博した。その中でも、虫籠に虫を入れて飼う日本人の習慣はスイスの人達の興味を誘ったようである。この展示資料は、1890年に来日し横浜の居留地に居をかまえたチューリヒ出身の絹商人・ハンス・シュペリのコレクションの一部である

(彼については、踊共二「スイス商人ハンス・シュペリを見た明治の日本」森田安一編『日本とスイスの交流』山川出版2005年所収が詳しい)。1896年に帰国するまでに絹商人として商いの傍ら、日本の竹製品に特別な関心を持った彼は、横浜在住の骨董商人、小林市松他の協力を得て収集を行い、1534点ほど母国に持ち帰った。チューリヒ大学に寄贈された彼のコレクションは、永い間、大学の倉庫に眠っていたが、この展示で日の目を見た。シュペリには、『日本の捺印制度』Das Stempelwesen in Japan. Zürich, 1901.『自叙伝』Mein Lebenslauf. Zürich, 1924-1925.の著書があるが、1903年に出版された本書は、彼が収集した日本の竹製品目録一覧になっている。第1章は「日本の竹について」、第2章「日本の竹の用途」、第3章「美術的モチーフと装飾的モチーフとしての竹の利用」、第4章「言語や文学に表現された竹」、補遺(Anhang)の第5章「竹の新たな用途」、第6章「中国での竹の用途についての覚書」の各章から、<日本の文化>諸領域で彼が知った竹の<文化>観が伝わってくる。それは「竹の使われ方、その根底には、あらゆる民族階級の生活秩序が鋭く刻印され内在している」(序文)と彼が述べていることから理解できる。本文にある62の挿絵は、彼の論述を十分に補足している。「布袋竹」(Hotei-chiku:Glücksgott-Baum)から始まる植物学から見た竹、熨斗(noshi:Geschenkezeichen)、障子(shoji:Schiebtüre)、欄間(ramma:Ventilationsgitter)に見る竹とその様式美、凧(tako:Drache)、竹馬(takeuma:Steckenpferd)、などの日常玩具としての竹製品、「Take ni naritaya shi-chiku no takeni moto-wa-shakuhachi nakawa-fue suewa-somojino fude no jiku omo imairase-soro-kashiku」(190頁)のように「端唄」(ha-uta)に表現された竹。身近にある竹、そして日常生活に深く入り込んでいる竹製品だが、シュペリのこの著書は、我々は忘れかけているのだが、日本の<文化>の中に<竹の文化>という固有の領域があることを明らかにしている。

(図書館情報サービス課 吉田 隆)





## ベストセラー図書コーナー BOOK LIST

横浜図書館では、最近話題になった図書、ベストセラー図書を集めたコーナーを設けています。場所は、1階開架閲覧室の就職・資格本コーナーの横です。ここでは、1か月に3回位のペースで、今話題になっている本を配架しています。

- ・1月10日～2月28日に配架した図書。(受入日順)
- ・配架した図書は、4週間位ベストセラー図書コーナーに置いた後、通常の開架閲覧室に戻します。

いのちの日記:神の前に、神とともに、神なしに生きる  
柳澤桂子著 小学館 2005.1 B159-358

本当に成功できる7つの行動 川西茂著 イースト・プレス  
2005.12 B159-359

やっぱりこれで運がよくなった! 浅見帆帆子著  
広済堂出版 2005.12 B159-360

社長!あなたが死んだら会社はどうなる?:企業を永続させる  
ための社会的責任としての事業承継 野村朋永、谷本勝則著  
出版文化社 2005.10 B336.98-262

ひとつ上のアイデア。真木準編著 インプレス  
2005.10 B354-311

新・買ってはいけない 境野米子、渡辺雄二著 金曜日  
2005.12 B355.1-106-855

子どもを伸ばす5つの法則:やる気と能力を引き出すパパ・  
ママコーチング 佐々木喜一監修; 小山英樹著  
PHPエディターズ・グループ 2004.3 B379-412

みずうみ よしもとばなな著 フォイル 2005.12  
B913.6-3962

逃げる光彦:内田康夫と5人の女たち 内田康夫著  
有楽出版社 2005.10 B913.6-3963

10年後の日本『日本の論点』編集部編 文藝春秋 2005.11  
B081-479-67

天皇と東大:大日本帝国の生と死 /上 立花隆著  
文藝春秋 2005.12 B216-1-323

天皇と東大:大日本帝国の生と死 /下 立花隆著  
文藝春秋 2005.12 B216-2-323

震災時歩いて帰る帰宅支援マップ(神奈川・城南方面版)  
昭文社 2005.9 B290.38-2-179

超バカの壁 養老孟司著 新潮社 2006.1 B304-1251

マオ:誰も知らなかった毛沢東/上 ユン・チアン、ジョン・  
ハリデイ著;土屋京子訳 講談社 2005.11 B312.22-1-302

マオ:誰も知らなかった毛沢東/下 ユン・チアン、ジョン・  
ハリデイ著;土屋京子訳 講談社 2005.11 B312.22-2-302

田中角栄:私が最後に、伝えたいこと 佐藤昭子著  
経済界 2005.12 B312.8-422

細野真宏の世界一わかりやすい株の本 細野真宏著  
文藝春秋 2005.6 B355.6-2-746

またまたへんないきもの 早川いくを著;寺西晃絵  
バジリコ 2005.12 B480.4-2-46

脳内汚染 岡田尊司著 文藝春秋 2005.12 B490-3424

意味がなければスイングはない 村上春樹著 文藝春秋  
2005.11 B760.4-217

団塊諸君山もいざ:夢と勇気とサムマネー 大野剛義著  
日本経済新聞社 2005.12 B786-85

ハートで感じる英文法:NHK3か月トピック英会話  
大西泰斗、ポール・マクベイ著 日本放送出版協会2006.1  
B835-305

ひみつの花園(王国 = Kingdom その3) よしもとばなな著  
新潮社 2005.11 B913.6-3-3973

エンド・ゲーム 恩田陸著 集英社 2006.1 B913.6-3971

夜市 恒川光太郎著 角川書店 2005.10 B913.6-3972

砂漠 伊坂幸太郎著 実業之日本社 2005.12 B913.6-3974

神の手/上 パトリシア・コーンウェル 著:相原真理子訳  
講談社 2005.12 B933-1-1684

神の手/下 パトリシア・コーンウェル 著:相原真理子訳  
講談社 2005.12 B933-2-1684

ロウアーミドルの衝撃 大前研一著 講談社 2006.1  
B361.4-902

ネイティブスピーカーの英文法絶対基礎力 大西泰斗、ポ  
ール・マクベイ著 研究社 2005.11 B835-307

レタス・フライ 森博嗣著 講談社 2006.1 B913.6-3984

魔女の笑窪 大沢在昌著 文藝春秋 2006.1 B913.6-3985

山田真哉のつまみ食い新会社法:500円でわかるシンプル版  
山田真哉、緒方美樹、宮崎剛編著 青春出版社 2006.1  
B325.2-822

起業への情熱:プレジデントビジョン:未来の社長たちへの  
メッセージ ライブレポリレーション、増永寛之編著  
アーク出版 2006.1 B335.1-826

私一人 大竹しのぶ著 幻冬舎 2006.1 B772-27

ガール 奥田英朗著 講談社 2006.1 B913.6-3999

てのひらの迷路 石田衣良著 講談社 2005.11  
B913.6-4000

ニンギョウがニンギョウ 西尾維新著 講談社 2005.9  
B913.6-4001

人は化ける!組織も化ける!:伝説の元信金役員が語る筋金  
入りのリーダー論 中川政雄著 PHP研究所 2005.10  
B336.3-382

現場革命:ふつうの会社が「オンリーワン企業」に進化する  
大脇順樹著 中経出版 2005.11 B336-822

ドラッカーの遺言 ビーター・F.ドラッカー著;窪田恭子訳  
講談社 2006.1 B304-1261

米中石油戦争がはじまった:アメリカを知らない中国は敗れる  
日高義樹著 PHP研究所 2006.2 B319.22-123

日はまた昇る:日本のこれからの15年 ビル・エモット著;  
吉田利子訳 草思社 2006.2 B332.16-1139

あたりまえだけどなかなかわからない商いのルール  
高橋邦治著 明日香出版社 2005.12 B353-829

日本の戦争力 小川和久著;坂本衛聞き手 アスコム  
2005.12 B390-792

それ行けちよさん94歳!!私がおっちゃんだけなのよ  
ちよ女著 たま出版2006.2 B914.6-2114

三谷幸喜のありふれた生活4:冷や汗の向こう側  
三谷幸喜著 朝日新聞社 2005.12 B914.6-4-2113

# 図書館無線LANの利用について

このたび図書館において、無線 LAN が整備されました。これにより横浜図書館では、Mobile Zone 表示のある閲覧室で、個人のノート PC を無線 LAN (MIYAMO-NET) に接続できるようになりました。(第 1グループ閲覧室、第 2グループ閲覧室、雑誌閲覧室) 第 1グループ閲覧室と雑誌閲覧室の窓側席には PC 用の電源も設置してあります。

平塚図書室においては、館内の静粛性を保つために、Mobile Seat 表示のある席に限定して、利用することができます。(開架閲覧室のキャレル22席と新聞雑誌閲覧室全席) Mobile Seat 席には PC 用の電源が設置してあります。

なお、音声出力をする場合は、音が漏れないようにヘッドフォンを使用してください。

無線 LAN を利用するためには MNS (MIYAMO-NET Services) アカウントを取得していることと接続設定をしていることが前提となりますので、事前に MNS のホームページ「無線 LAN 接続環境について」を確認のうえご利用ください。図書館一般公開の会員の方は、無線 LAN の利用はできませんので予めご了承ください。

## 無線 LAN 利用可能エリア

### ■横浜図書館 B 1

- (1) 第 1グループ閲覧室
- (2) 第 2グループ閲覧室



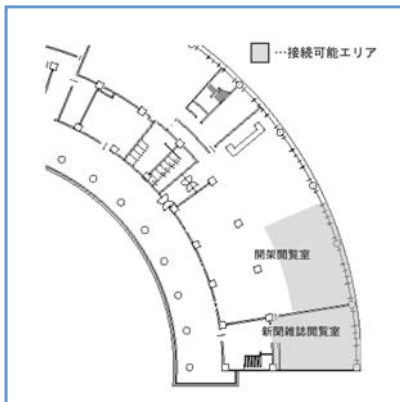
### 1階

- (3) 雑誌閲覧室



### ■平塚図書室 61号館 1階

- (1) 開架閲覧席のキャレル (22席)
- (2) 新聞雑誌閲覧室 (全席)



## エリア分けステッカー



横浜図書館  
Mobile Zone



平塚図書室  
Mobile Seat

## ■ 本学図書館と県立図書館との相互協力を4月から実施 ■

本年4月より、本学図書館と神奈川県立図書館・神奈川県立川崎図書館との間で相互協力協定を締結いたしました。これにより、本学の学生、教職員は、県立図書館の所蔵図書を利用者登録することなく、本学図書館内で閲覧できるようになりました。

利用に際しては県立図書館のホームページ（K L E E T）で所蔵を検索し、2階レファレンスカウンターで利用したい図書の申し込みをしてください。相手館の都合や配送の関係で利用状況が変わりますので詳細は窓口まで問い合わせください。

なお神奈川県民も、本学図書館の所蔵図書を、県立図書館内で閲覧することができます。

## 新規データベースの導入について

### 【新規データベース】

経済・経営系を中心に、2006年度新たに次のデータベースが利用できるようになりましたので、ご活用ください。

また、情報リテラシーセミナーも5月以降に予定しておりますので、是非ご参加ください。詳細は、近日中にホームページに掲載します。

**日経テレコン21**：日経4紙、日経地方経済面、企業情報、人事情報、マクロ経済統計、ほか。現在の代行検索従量制から移行。

**日経BP記事検索サービス**：「日経ビジネス」「日経パソコン」など、日経BP社が発行している幅広い分野の専門雑誌約40誌の記事が検索・閲覧できるデータベース。誰にでも簡単に利用できます。

**eol(イーオーエル)DBタワーサービス**：1984年からの有価証券報告書、半期報告書、短信データ、財務データ、ほか。企業調査・分析、研究に適したデータベース。また、就職活動にも有益。企業情報を強化した「eolESPer」としてバージョンアップ予定です。

**Science Direct(サイエンス・ダイレクト)**：エルゼビア社発行の本学購読雑誌の電子ジャーナル(PDF)のデータベースです。

**Pro Quest(プロクエスト)**：総合学際的データベース。このうちARL(Academic Research Library)(人文・社会・自然・ニュース等)と、ABI/INFORM(ビジネス・経営等)の2種類のデー

タベースです。

**Women and Social Movement**：アメリカ女性運動に関する書籍、パンフレット、画像、書誌等のデータベースで、59の研究課題が収録されています。

### 【新機能を追加したデータベース】

次のデータベースは、バージョンアップしたJDreamIIと本学図書館の蔵書検索(OPAC)にリンクが貼られたBOOKPLUSおよび新たにデータベースが付加されたEBSCOhostの紹介です。

**JDreamII**：JSTPlus(科学技術分野の文献情報データベース)、JMEDPlus(医薬分野の文献情報データベース)、医学薬学予稿集全文データベースなどを検索することができます。

2006年4月にJDream(エンドユーザー向け)とJOIS(コマンド)が統合し、より使いやすい検索システムに全面移行されます。

**BOOKPLUS**：本学の蔵書検索(OPAC)との連携機能が追加されました。[BOOKPLUS]の一覧画面・詳細画面の[所蔵確認]から蔵書検索(OPAC)の検索結果にリンクしています。

**EBSCOhost**：図書館学・情報科学及び関連分野のインデックス・抄録データベース[LISTA(Library Information Science Technology Abstracts)]が追加されました。また、学外アクセス用としてEBSCOhostの外にもリンクを貼りました。

## 図書館展示コーナー

### 『名著復刻全集に見る近代文学Ⅱ』

～詩歌俳句編～

展示期間 4月1日～6月30日

平成18年度第一回展示は『名著復刻全集に見る近代文学Ⅱ－詩歌俳句編－』と題して、明治から大正、そして昭和16年の太平洋戦争開始までに刊行された詩歌と俳句を紹介しています。明治時代になって、西洋の詩を日本語に訳して紹介する試みが初めておこなわれました。それが「新体詩抄」です。展示された作品からは、その初期の翻訳から初まって、やがて大正、昭和と時代が進むにつれて独自

の方法を編み出し、洗練されてゆく日本の詩歌の姿を感じ取れるのではないのでしょうか。

展示コーナーでは出版当時の姿を再現した名著復刻全集の中から、親しみやすい作品を選んで年代順に展示しています。そのうちいくつかは教科書などで知っているものがあるはずですが、ぜひ探してみてください。



## 図書館の利用案内

### 1. 春季長期貸出図書の返却について

春季長期貸出期限日は4月10日(月)です。返却がまだの方は至急返却をしてください。

### 2. 図書館利用ガイダンス

4月中旬から、在学生を対象とした図書館利用ガイダンスを実施します。詳細については、掲示および図書館ホームページをご覧ください。

### 3. 情報リテラシーセミナーの開催

今年度も、データベースの使い方の講習を2F情報リテラシーセミナー室で開催します。詳細については、掲示および図書館ホームページをご覧ください。

### 4. グループ情報検索室の利用について

横浜図書館には、データベースやインターネットを活用しながら学習できる部屋として、グループ情報検索室があります。利用はクラスの小组(班)、ゼミ単位となります。利用方法の詳細については、ホームページをご覧になるか、2階レファレンスカウンターにお問い合わせください。

### 5. 図書館の一般公開について

学術の向上や生涯学習に寄与するために、社会人、高校生、本学の卒業生等を対象に図書館を公開しています。会員登録方法等詳細については、図書館ホームページをご覧ください。

### 書架から

＜民族史的転換点＞、あるいは＜文明史的転換点＞——日本中世の「自由」と「平和」をテーマとした『無縁・公界・楽』をはじめ、図書館で150冊以上所蔵している網野善彦先生の著作や先生自身から、この言葉をどれほど聞いたことだろう。中世における自然や社会との関係の大きな転換点をこう呼んだ先生は、最晩年『「日本」とは何か』で、いまの日本社会は、同じような転換点であり、人類はすでに青年期を過ぎ「壮年期」に入ったのではないかと書いている。没後3年目を迎えて、あらためて網野先生のことを思う。

(K)